

劣化対策 (耐久性)	劣化状況	2階デッキは撤去。1階デッキは撤去後新設した。雨漏りで腐食した木材は取り換え、外装材や軒樋をやり直すことで補修した。また、外壁・断熱材・設備配管はやり替えを行った。(倉庫部分は補修のみ)
	劣化対策	目視確認などによりクラックや外壁の損傷などがあれば専門業者に確認してもらい、必要に応じて補修を行うとよい。
耐震性	地形地盤	現地調査の際、南側に交通振動等による地盤沈下がみられたが、新築の頃から時間がたっており、更なる沈下が起きる可能性は少ないと考えられる。
	上部構造	平瓦葺きである。内壁はPB+石膏ボードが主である。外壁はガルバリウム鋼板に張替しており、軽い建物として計算している。
温熱性	外皮性能	本評価は玄関と土間の堺を熱的境界として計算を行っている。断熱工法は充填断熱とし、断熱等級4以上の性能を確保している。
	気密防露	基礎断熱としているため、気流止めの設置は行っていない。壁体内結露の対策として外壁側には透湿防水シート、室内側には気密シートを行っている。
省エネルギー性	消費量	1年間の一次エネルギー消費量の推計値は約「53.2GJ」であり、建築物省エネ法の基準値「78.9GJ」よりエネルギーを79%に消費を抑えている。白熱灯からLED照明に変更したことや、太陽光で発電したエネルギーを自家消費することでエネルギー消費量を抑えたためと考えられる。
	設備機器	給湯機は天気と連動しており、効率的にエネルギー消費を行うことができる。
バリアフリー性	形状・幅	日常生活空間内の出入口については、トイレ以外全て750mmを確保している。脱衣、洗面、お風呂はゆとりのある大きさとした。また、アプローチに高低差のある段差があったが、階段をつくることで登りやすくした。
	段差手摺	1階は玄関以外、段差のない空間であるため比較的生活しやすい空間である。家族構成や意匠の観点から玄関手摺、転落防止手すりを設けていないため、生活の変化に合わせて設置を推奨する。
火災時の安全性	避難安全	寝室や寝室から階段を下りるまでの居室には火災警報器を設定している。LDKには火災警報器がついていないため、つけることが望ましい。また、消火器なども必要に応じて購入するとよい。
	延焼防止	22条区域であるため、外壁は準防火構造とし屋根は不燃材料としている。